

Love

- ・ Relationship science の中で Love は中核
- ・ romantic love(最近) passionate love(普遍)

love の研究方法

- ・ 自然科学/生物学的 ・ 心理社会的
- ・ 測定方法

- ・ 当初：対人的魅力・like との違い、人類以外の love ⇒ Relationship science の中でも重要な領域
- ・ この章では、love の意味、科学的な model、測定方法、近年の研究成果、今後の方針について論じる

History of Romantic Love

Love は、abstract virtues(e.g. “the good”)あるいは、神に向かうものであった
4つの概念”Eros” “Philia” ”Nomos” ”Agape”

Romantic/passionate love はいつから出てきたのか？

Passionate love は人間普遍。しかし、passionate love と結婚が結びついたのは最近

宮廷風の優雅な愛は、別の人に感じるものだと理想化され、男女間の激しい愛は、結婚していない男女間に生じるとされていた。後に、”love marriages”となり、西欧では 18 世紀に急増。

Love と marriage の関係に対する考え方は、大きく変化した

30 年間大学生を調査した研究では、romantic love が結婚に重要だという回答が増加
結婚の継続にも love が重要と考えられている

中国に比べ、アメリカで、この関係を重視している人が多く、passionate love が結婚に重要としている＝
passion がなくなったら離婚

もし、love のうち、passion の面が相手を結びつけるのに十分でなくても、love を構成する他の面
(friendship など) が加われば、結びつきが強まることもある

良い友人が、passionate lover であれば、つながりは残りやすい

文化が変化してきていて、かつての恋人を友達にはできないという言葉はもはや真実ではない
多くの若者は、よき仲間、よき恋人であるパートナーを求めている。

また、romantic partner を、同時に親友として挙げる人が半数

両方ある人では、commitment と relationship satisfaction が高い。

Passion を伴う friendship は、romantic love の重要な構成要素

Models for Explaining Love

分けるのは難しいが以下に分けられる

- ・ 自然科学/生物学
- ・ 心理社会学

Naturalistic/Biological Approaches

◇Passionate and Companionate Love

Passionate love は、苦悩と快感を揺れ動く気分を伴う absorption (没頭) と定義

Companionate love は、2人が深く結びつくことによって生じる感情

- ・ Passionate love ⇒ companionate love のことも
- ・ 最近では、連続体ではなく、同時に起こるとみられている。人は両方望む

◇Attachment

- ・ Bowlby : 幼児とケアギバー →大人でも、喜びや悲しみが説明できる
- ・ 親の attachment がもたらす子への影響などの研究へ

◇Evolution of love

- ・ 人類において子孫繁栄のために感情の結びつきが重要。感情的な結びつきは、幼児の死亡率に関わる
- ・ 原始的な感情のつながりが愛の始まり

例) 男性より女性のほうが慎重に選ぶ

Psychological/Social approach

◇Prototype of love

- ・ 母性愛、親子愛、友情のような companionate love が、愛の典型として回答されることを発見
- ・ Passionate love や、sexual love は、あまり典型とは思われていない
- ・ Romantic love の研究でも、passionate love は companionate love (誠実、信頼など) より低位
- ・ Romantic love は passionate love + companionate love

◇Self-Expansion

- ・ 人間は、self-expansion への希望がある
- ・ 自己の成長は、物理的な所有もあるし、権力や影響を含むこともある
- ・ 恋に落ちると自己の境界が急速に拡大し、それゆえ喜ばしい気持ちになる
- ・ あなたと私⇒ “私達”

◇Love triangles

- ・ Love は3つが MIX
- ・ Intimacy, passion, commitment
- ・ 高低で8つのタイプ 3つそろると完全な愛、全てないと相手はない、など。
- ・ 近年は、愛は、時間や文化によって変わる社会構築的なものととらえられている
- ・ Love は人々が作り上げたストーリー

◇Love style

- ・ Love theory : 理論が 6 つ

Eros Ludas Storge Pragma Mania Agape

Measurement of Love

質問紙は多種

Rubin's scale (loving and liking) , Passionate Love scale, attachment,...

著者らの尺度 Love attitude scale(LAS)

- ・ 6 つの類型化を元に作成
- ・ psychometric properties は良好 (例 : 因子構造、負荷量、 α 、再テスト信頼性)
- ・ 比較的独立
- ・ 関係性に特化した version を含む修正版 LAS、短縮版もある

Current Research on Love

Love の理論⇒実証研究へ

◇Communicating Love

- ・ 言語+非言語
- ・ 5つのスタイル (Active/collaborative, committed, intuitive, secure, traditional)
- ・ 衝突を避けることを含む、コミュニケーションと愛の関係は、関係性の満足度を予測
- ・ 実際の disclosure レベルよりも、パートナーがどのくらい disclosure しているかという perception の方が、関係満足度を予測

◇Love styles

- ・ 男女差有り
- ・ 男性 : game playing (lubic) love
- ・ 女性 : friendship oriented(storgic)、practical (pragmatic)Love

最近、男性において、altruistic(agapic)も報告されてきている

game playing (lubic) love は、関係満足度とは負の関係

女性は、男性より、friendship、practical から始まるが、これらは、あまり満足度とは関連しない。

男女とも、Passionate love は満足度が高い。年齢、文化に関わらない

◇Love across Cultures

- ・ 文化的コンテキストで愛を考える or 普遍的な愛を考える がある
- ・ 米、日本、ロシアの Love attitude は類似
- ・ アメリカは、中国に比べて、pragmatic や manic が少ない
- ・ ただ、全体的には大きな差ではなく、今後研究が必要

◇Love and sexuality

- Love が sex を包含するのか、sex が love を包含するのか
- 性欲は、romantic love の根本
- Love と sex には関連があり、いずれにしても関係の親密さにおいて重要
- Sex : 愛を示す方法、肉体的な喜びと情緒的な満足度がある人は、一夫一婦の関係
- 研究が遅れているが、sex と love の関係は重要
- Sexual 、physical なしでの love や、love なしでの sex も可能だが、多くの人、多くの時代で関係がある

◇Love and respect

- 尊敬はあまり着眼されてこなかった

⇒変化：多くの夫婦が、結婚に love と respect を求める

- 3つの研究（2つは大学生、1つは就労者）
 - 尊敬は、全ての研究で passionate(erotic), altruistic(agapic) love と正の関連
 - 2つの研究で Friendship(stroic)は正、game-playing は負の関連
- Eros と Respect は満足度の予測因子

◇Love and Happiness/well-being

- 人間は need to belong をもつ種族
- 既婚者はその他の集団よりも幸福
- 愛されている人は、より幸せ
- 幸福スコアは、passionate love, friendship love, relationship satisfaction と正の関連

Future Directions

- Love は PP において重要、親密な関係に関する研究でも重要
- 臨床心理：romantic love の知識がセラピストの修練に重要
- ① Holistic approach : 科学者はもう一度人間を、変数の集まりではなく、全人的な視点で見るべき
- ② 精神と体の複雑性を認識することが、愛と性の理解につながる

Love と sex の関係：どちらかに含まれるのではなく、同等と考える

「触れる」という行為は重要

愛と性の研究が進んだら、老いに際しての性の問題について取り組むべき

若者にも、性交渉だけが、全てではない。ただ一緒にいることも親密さの重要な要素

性と年齢の固定肝炎は、変化しつつある

Love と sex は、ストレスと負の関連

45-49 歳：ストレスが少なく、自由な時間があると、性生活が改善

愛は、他の PP 概念と関連する中核的な概念として研究されるべき